

2017年8月2日作成  
(2018年4月8日確認編集)

## 2016年度～2018年度の中期（3年）計画

2016年度～2018年度の3年間は、リニューアルスタートした加飾技術研究会の基礎固めの期間として、ビジョン実現に向け、他の類似団体の参入の余地のない態勢を整える。(注 2016年度終了、2017年度開始後に作成)

### I. 2016年度（終了後作成）

2016年度は、定款（ビジョン）を大幅に改定し、基礎固めの初年度として、幹事会を中心に、具体的な運用方法を検討し、会員勧誘を行い、事業ドメインの中の（1）を実施し、（2）、（3）、（5）も実施をめざす。

- （1）研究会、講演会等の開催 計画通り実施。
- （2）加飾技術の調査、研究、開発、マーケットの調査研究などを開始する。
- （3）会誌等の発行を行う。
- （4）加飾技術の調査・研究・開発に対する支援は翌年度以降に実施する。
- （5）会員相互の連絡と連携、および懇親の深化に取り組む。

### II. 2017年度（会員総会后に具体案作成）

2017年度は、2016年度の実績、反省に基づき、下記の達成に取り組む。  
(詳細は、別途作成の「2017年度事業計画・目標」に示す)

- （1）研究会（例会）を4回開催する  
内、最低1回は工場見学会を実施。1回は、東京以外で実施。
- （2）情報発信
  - 1) レターを2回発行する。
  - 2) 「加飾の基礎と最近の動向（仮）」の書籍の発行を目指す。
  - 3) HPの Archive 頁およびその他で、会員による徹底した情報発信を行う。  
(情報は発信した者に集まる)
- （3）会員の拡大  
今年度は、法人、個人で、25社の開拓を目標として、H29年度総会時の会員、60社を目指す。
- （4）HPを改正、充実させる
  - 1) HP全体を見直し、より見やすく、利用しやすいHPに改正する。
  - 2) 加飾技術研究会会員サイトのアーカイブを見直し、より充実したサイトに改正し、会員に加飾関連情報を積極的に提供する。
- （5）加飾技術の調査・研究・開発に対する支援に取り組む。
  - 1) 例会で、会員の技術紹介、課題提供を行う場を設ける。
  - 2) 個別に、技術相談、技術支援を受付け、会員を中心とする適切な人材による対応を行う体制を整える。(本件は、原則、有償対応とし、その対価などは内規で定める)
- （6）コンバーティングテクノロジー総合展2018に参加し、来場者の加飾関係の技術相談を実施し、一方で加飾技術研究会のPRに努める。
- （7）一般社団法人 加飾技術研究会の設立準備  
加飾技術研究会を一般社団として法人化することについて準備を開始し、2018年度の法人化を目指す。
- （8）外部団体との交流を充実する。
  - 1) 日本のメディアとの関係を深める。

2) その他、日本、海外（中国、台湾、韓国）の関係団体との交流を模索する。

上記の運営を積極的に推進するために、下記の会を開催する。

(1) 幹事会の開催

会の具体的な運営を検討・企画・推進するために、副会長（研究会統括担当）、総務・会計担当理事、事務担当理事、顧問を中心とする幹事会を適宜開催し、運営する。  
適宜、会長、理事などにも出席いただく。

(2) 理事会の開催

総会前などに、定例理事会を開催する。

### Ⅲ. 2018年度

2018年度は、基礎固めの最終年で、かつ、次の3年計画の初年度として位置づけ、加飾技術に関するプラットフォームとしての地位を確立する。

2018年度の具体的な計画は、2017年度の実績、反省に基づいて、2017年度末に作成するが、下記項目の実施を目指す。

- (1) 一般社団法人としての体制の整備。
- (2) 研究会、講演会の充実。一般からの募集講演の開催なども検討。
- (3) 加飾技術、加飾マーケットなどの調査業務の充実。個人から加飾研としての実施へ。
- (4) 情報発信強化。Archive 頁の充実、会誌の検討など。
- (5) 会員への技術相談、技術支援実施。
- (6) 会員相互の連携支援。
- (7) 関係外部団体との交流充実。